ピースおおさか展示リニューアル「基本設計」

【展示リニューアルの方向性】

○展示リニューアルに当たっては、ピースおおさかの目的を次のように再構築し、次代を担う子どもたちが、 大阪と戦争の関係や身近な地域に起こった空襲の事実を通して、戦争の悲惨さ、戦争の背景・メカニズムを 理解するとともに、平和を自分自身の課題として考えることができる展示を目指すことを基本とする。

「目的」

- ・大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する
- ・大阪空襲を中心にして「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」を次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育む
- ○"大阪中心"に"子ども目線"で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」にリニューアルする。

「ピースおおさか展示リニューアル構想」(平成25年3月策定)より抜粋

●コネクティング展示

大大阪と

「軍都」大阪

【展示設計方針】

1. 子ども目線の展示

子どもたちの暮らしの 変化の様子を基軸に展開 し、社会の急激な流れの 中で子どもたちがどのよ うな思いを抱いていたの かをクローズアップさせ る展示とする。

★トピック展示②

1万5千人の命を

奪った空襲/

モノも文化も焼き 尽くした空襲

スローブ

2. 実感できる展示

「実物」はいわれのある、 メッセージ性の高いもの を中心にピックアップし、 「証言」と組合せるなどし て、リアリティのある展 示とする。詳細な解説な どは補助的な位置付けと し、無駄な情報の氾濫は さける。

「刻の庭」

空襲によって失われた

多くの命

「刻の庭」前ホール・

★トピック展示③

入館者の足跡

(「いのち」への。

メッセージ)

3. 知的好奇心を喚起 させる展示

「中に入ってみたくなる」 「次が覗いてみたくなる」 といった、人々を興味から 行動へと導いていく展示を 空間構成面と展示手法面の 両方から行い、最後まで見 たくなる展示を目指す。

4. ローコスト、ハイ パフォーマンスな展示

戦争のあった時代を物語 るものとして、最もパワー のある当時の「証言」と「実 物」を中心に、「写真」も 活用しながら展示メディア を構成。シンプルな形状で あっても展開の仕方で非常 に興味深いものにすること が可能。

【展示ストーリー】

展示へのアプローチは 「現在の大阪」と 「隹+と化したかつての大阪」 の姿の比較から

■プロローグ展示 A. 昭和20年、 大阪は 焼き尽くされた

B. 世界中が 戦争をしていた 時代

日本を含め、世界中が戦争をしてい

た時代を振り返り、技術や文化の発展と

ともに、戦車や飛行機などの近代兵器

が開発され、一般の人々までが、被害を

B-2.日清・日露戦争から太平洋戦争まで

なぜ日本は太平洋戦争に突入するこ

とになったのか、その経緯と終結までを

第二次世界大戦(太平洋戦争)

受けるようになったことを伝える。

B-1.世界各地の戦争

概観する。

日清・日露戦争~

日中戦争~

第一次世界大戦~

大大阪と「軍都」大阪

商業・紡績・鉄鋼などあらゆる 阪が、東洋一の規模を有した砲 兵工廠や第四師団司令部の立 地など軍都という一面も有して いたことを紹介。併せて、国防婦 人会の創設や満州ブームなど、 市民も戦争に深く関わっていっ

た様子を示す。

C-1.戦争と人々の暮らし

戦争の長期化は、国民生活に大きな影響を及ぼし 産業が栄え大大阪と呼ばれた大た。戦時経済体制の下、物資が不足し、人々は苦しい 生活を余儀なくされていく。戦火の脅威にさらされる 中でも懸命に生きた人々の暮らしを紹介し、平和な 毎日を享受できる今日との違いを実感してもらう。

★トピック展示①

広告に見る太平洋戦争

C.戦時下の

大阪の暮らし

- 繁栄の時代から戦争の時代へ -統制下の暮らし
- -満州を夢見て
- 国民徴用令の公布
- –女性も戦力の一員に
- -鍋・釜・バケツも決戦のために
- 代用食で節米
- ―家族との別れ、戦地へ

C-2.子どもたちの戦時下の暮らし

戦局の悪化に伴い、子どもたちの生活も厳しさを 増していく。学校教育、疎開、食糧事情、遊びやおも ちゃなど、子どもたちの日常さえも時代に振り回さ れていった当時の様子を紹介する。

- -尋常小学校から国民学校へ
- ひもじさと闘った学童集団疎開
- -われら少国民
- -戦時教育令の公布
- -戦争の犠牲となった動物たち

C-3.空襲前夜「次は大阪か」

戦局が悪化していく中、米軍により日本の主要都 市は次々と空襲されていった。大阪でも地域や家庭 で来るべき空襲への備えを進めていた。東京、横浜、 名古屋が壊滅的な被害を受ける中、大阪の人々の様 子を紹介する。

-防空対策

-空襲に備える暮らし

D-1.すべてを焼き尽くされた大阪

D. 多くの犠牲を出し

焼け野原になった

大阪

50回以上の空襲により、壊滅へと追い込ま れていった大阪の悲惨な様子を紹介する。

D-2.空襲の恐怖

大阪を焼き尽くした空襲の実相を、"証言" と被災"実物資料"を中心に伝える。

- 無差別爆撃の恐怖
- 無差別爆撃の傷あと
- 防空壕の中で過ごした不安

D-3.米軍の戦略と大阪空襲

軍関係施設に限らず、都市を無差別に爆撃 し、一般市民を巻き込んだ大阪空襲の実相を、 米軍の戦略から読み解き、紹介する。

- 緻密に計算された戦略
- 空襲と大阪の住環境
- └─ 府内各地の空襲被害

E. たくましく生きる 大阪

★トピック展示(4)

データに見る大阪の発展

E-1.焼け野原から大都市へ

占領下の暮らしから高度経済成 長を経て、再び大都市へと復興し た大阪の様子を紹介する。

E-2.占領下の大阪と闇市

完全な主権回復までの7年間、 貧困や物資不足などの苦しみに耐 え、当時をたくましく生き抜いた先 人たちの姿を紹介するとともに、 行政をはじめ様々な主体による支 援活動によって復興が成し遂げら れていったことを紹介する。

- 敗戦と大阪
- 大阪と進駐軍
- 食糧難と住宅難
- -配給制度の混乱と闇市
- 痛手を負った人々の苦しみ - 青空教室と黒塗りの教科書
- 民衆に力と癒しを与えた文化活動

E-3.発展する大阪と人々の暮らし

占領統治解除後、高度経済成長を 果たした日本と大阪を概観する。 「通天閣の再建」

「千里・泉北ニュータウンの開発」 「大阪万博の開催」

「船場センタービルの整備」 など

. 私たちの未来を 創っていくために

F-1.今、この瞬間にも平和は脅かさ れている

今、この瞬間にも世界各地では様 々な問題が発生し、平和が脅かされ ていることを紹介する。

-終わらない戦争・紛争 ―平和を脅かすもの

F-2.大阪の復興からみた平和の発信

大阪が戦前・戦中・戦後を通じて 得た教訓を元に果たすべき役割と は何か。私たち一人ひとりが今でき ることは何かを考えてもらう。

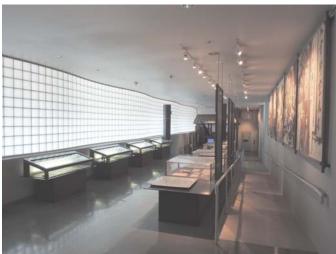
> ■エピローグ展示 未来に向けた 館からのメッセージ

※) 各項目の表記等については、

実施設計において引き続き検討を行うこととしています。

現状





イメージ図

A. 昭和 20 年、大阪は焼き尽くされた



B. 世界中が戦争をしていた時代



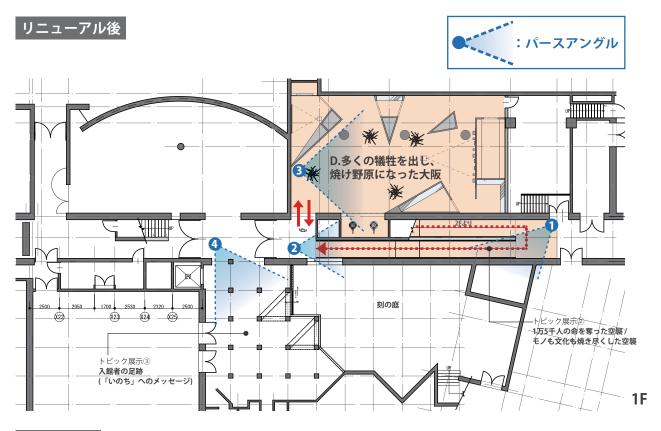
コネクティング展示.大大阪と「軍都」大阪



C. 戦時下の大阪の暮らし



※) イメージ図は、現設計段階のものであり、 確定した展示内容を示すものではありません。

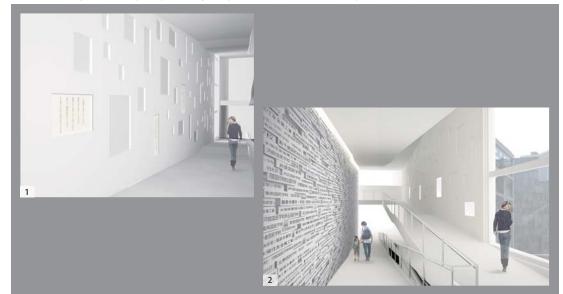


現状





トピック展示②. 1万5千人の命を奪った空襲/モノも文化も焼き尽くした空襲



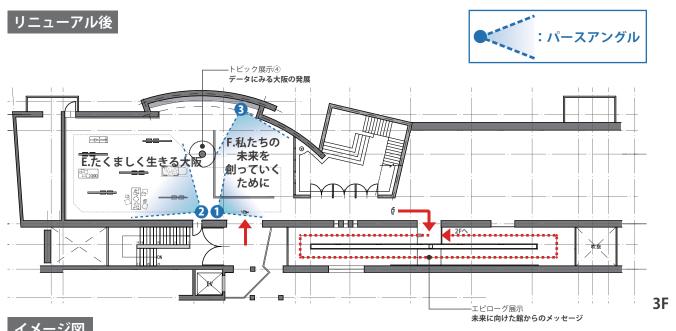
トピック展示③. 入館者の足跡 (「いのち」へのメッセージ)



イメージ図

D. 多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪







現状



イメージ図

E. たくましく生きる大阪



F. 私たちの未来を創っていくために



